



第 18 回

鳥獣人物戯画 甲巻

(部分)

紙本墨画 31.1×1156.6cm 12世紀後半
高山寺蔵(京都府) 東京国立博物館寄託
※中学校教科書『美術2・3』P.36～37,
高等学校新版教科書『美術1』P.15～18に掲載

1000年の笑い

おなじみ鳥獣人物戯画！
カエルやウサギが相撲をとったり、面白おかしく描かれた超有名な絵巻物。これは日本のマンガの先祖だなんて言われてるんだけど、ボクが鳥獣人物戯画から引き継ぎたいのは、絵柄や技法ではなくて「笑うキモチ」。鳥獣人物戯画を見ていると、立派なものや美しいものだけでなく、面白いものや皆で楽しめるものも、ちゃんと時代を超えて残っていくんだなと思える。

作者は不確かだけど、鳥羽僧正とばそうじょう覚猷かくゆうという説がある(※1)。天台宗の座主まで上り詰めた偉い人だけど、一方で相当ユーモラスな面もあったらしい。なんと「放屁合戦」なんて作品も遺しているほどだ。オナラだぞ。今じゃ子供が描いても叱られる、かも(笑)。
遺言も有名で「遺産の分け方は腕力で決める」などと言い遺したらしい。これは強い者が勝ちというその時代の風潮を皮肉りたかったんじゃないかと言われている。この遺言のように、鳥羽僧正が目指した笑いは

ただバカバカしいだけでなく、風刺的だったんだろうな。
風刺は、その時代時代の社会や政治を笑いでくるんで、やんわり批判する。西洋で風刺画が流行ったのは19世紀だった。政治に参加することになった市民に社会や政治の構図を分かりやすく説明するために、あるいは権力者をこきおろすことで市民たちが溜飲を下げるような役割を果たしていた。
鳥獣人物戯画が描かれたころはどうか？
1000年前は平安時代末期。地方で

は武士が力を伸ばし、中央では院政が始まり、権力が不安定になっていた時代だ。きっとどこかのお寺かお屋敷に仲間が集まり、鳥獣人物戯画を見ては「このサル、全くあのお方のおりですな(笑)」「いやいやカエルにはなりたくないものよ」などと、時の権力者や風潮を笑っていたに違いない。
市民が皆で楽しむような風刺ではなく、仲間内でこっそり楽しむものだったのだろうか？ もしかして見つかるはずのものだったとか？
「これやバイやつなんだけど」とか

言ってこっそり回し読みされてたのかも？ サルが誰だったの？ カエルが何なの？ 想像は膨らむ！
1000年前の笑いを1000年前のように楽しみたい。
一方未来はどうなんだろう？
時代が変わっても風刺は生きている気がするぞ。なんて鳥獣人物戯画を見ながら、1000年後の笑いに想いを馳せるのだった。

※1
鳥獣人物戯画の作者については、鳥羽僧正覚猷が描いたとする説以外にも、近年では寺院に属する絵仏師だったとする説や、宮廷絵所の絵師だったとする説などがある。

しりあがり寿
しりあがりことぶき
漫画家。1958年静岡県生まれ。多摩美術大学グラフィックデザイン専攻卒業後、ビール会社勤務を経て、1985年『エレキな春』でデビュー。2001年『弥次喜多 in DEEP』(エンターブレイン)で手塚治虫文化賞優秀賞受賞。2002年から朝日新聞・夕刊で『地球防衛家のヒトビト』を連載。ギャグから社会派まで幅広いジャンルの漫画作品を手がける。2014年、紫綬褒章受章。